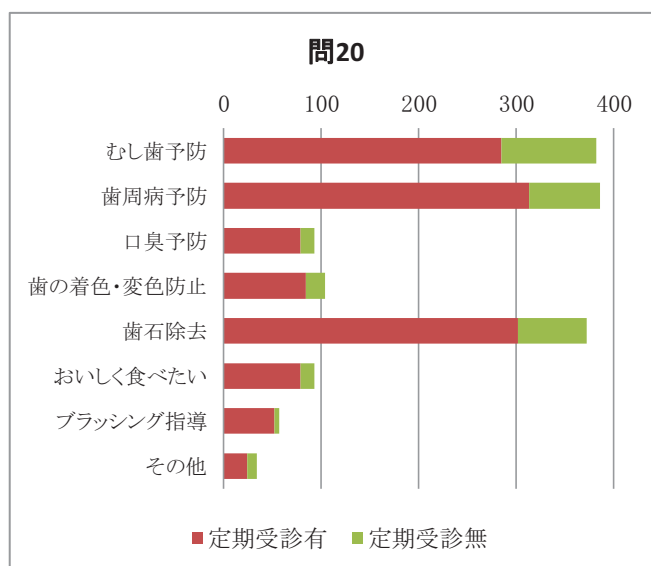


問 20. [問 19 で 1 年以内の頻度で検診と答えた方のみ]定期歯科検診を受けている理由は何ですか？(複数回答)

	定期受診有	定期受診無	計
むし歯予防	285	97	382
歯周病予防	313	73	386
口臭予防	79	14	93
歯の着色・変色防止	84	20	104
歯石除去	302	70	372
おいしく食べたい	79	14	93
ブラッシング指導	52	5	57
その他	24	10	34
計	1218	303	1521

※現在の歯科の需要は、圧倒的に予防処置であることがうかがえる。

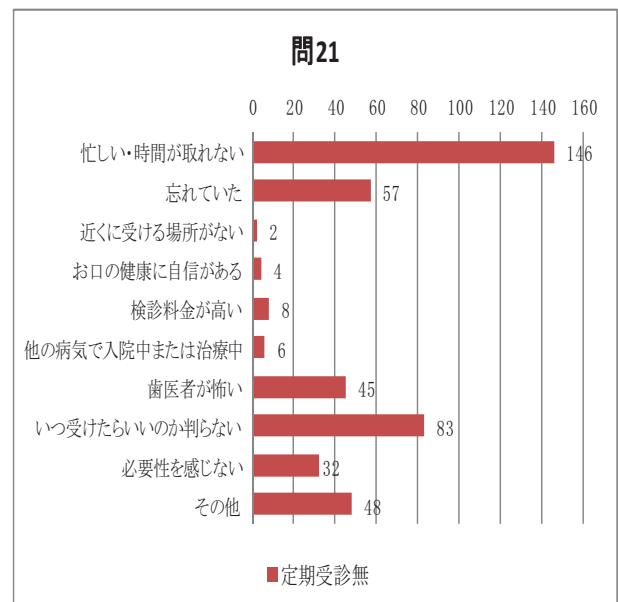


問 21. [ 問 19 で 1 年 以上 検 診 を 受 け て い な い、ま た は 全 く 受 け て い な い と 答 え た 方 の み ]  
 定 期 歯 科 検 診 を 1 年 以 上 も し く は ま っ た く 受 け て い な い 理 由 は 何 で す か？ (複 数 回 答)

	定期受診無	未回答	計
忙しい・時間が取れない	146	0	146
忘れていた	57	0	57
近くに受ける場所がない	2	0	2
お口の健康に自信がある	4	0	4
検診料金が高い	8	0	8
他の病気で入院中または治療中	6	0	6
歯医者が怖い	45	0	45
いつ受けたらいいのかわからない	83	1	84
必要性を感じない	32	0	32
その他	48	0	48
計	431	1	432

※定期検診を受けない理由に、忙しいことがうかがえる。

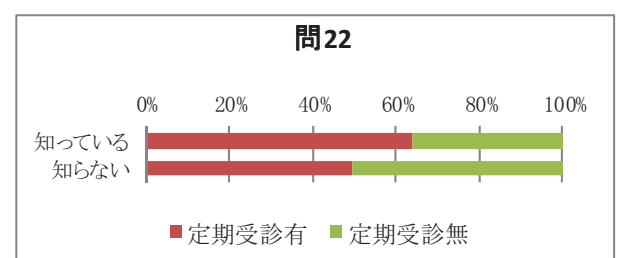
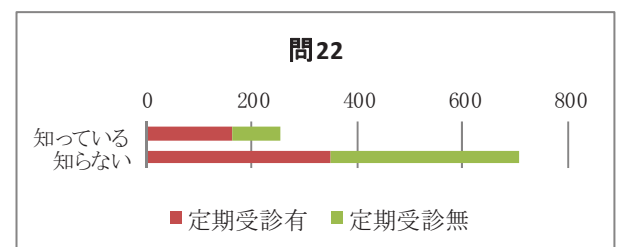
また、いつ受けたらいいのかわからないという意見に対しては、歯科医師側の啓発が必要である。



問 22. 歯の本数が多い人ほど全身にかかる医療費が安くなる傾向があることをご存知ですか？

	定期受診有	定期受診無	未回答	計
未回答	3	1	0	4
知っている	164	92	0	256
知らない	351	357	1	709
計	518	450	1	969

※定期受診有無とも歯の本数が多い人ほど全身にかかる医療費が安くなる傾向があることを知らない方が多いため、啓発が必要である。



# リーフレット「定期的な歯科健診のすすめ」

## 歯科受診のきっかけは歯科健診

日本では、1歳6か月児・3歳児・保育園幼稚園・小中学校で法定の歯科健診を受けることができます。しかし、高校卒業後から39歳までの間、法定の歯科健診を受ける機会はほとんどありません(図1)。また、若い世代の歯科の通院者率は低い状況です(図2)。

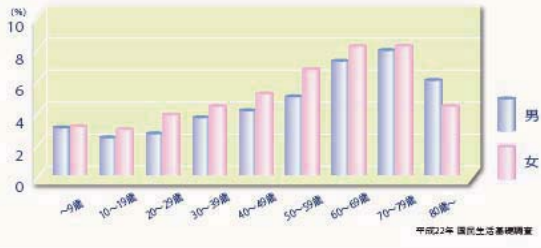
歯を失う原因となる「むし歯」や「歯周病」は症状が現れた時にはかなり進行している場合が多く、特に40歳ぐらいから進行した歯周病を有する人の割合が増加します。お口の健康を維持することで、美味しく何でも食べること、素敵な笑顔をつくることができ、また全身の健康維持にもつながります。

素晴らしい人生をおくるため、若いうちから、かかりつけ歯科医院で定期的な歯科健診を受けましょう。

図1 歯科健診



図2 歯科の通院者率



## 定期的な歯科健診のすすめ



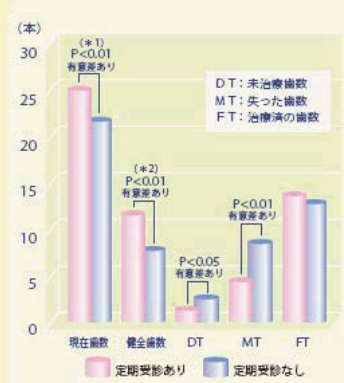
一般社団法人  
**ADA** 愛知県歯科医師会  
愛知県

1 愛子 22歳 知子 22歳

2

3

4 愛子 80歳 知子 80歳



### 60歳代での定期歯科受診の有無と歯の状態

定期的に歯科受診をしている人と、していない人を調査し、歯の本数などを示したグラフです。60歳ぐらいになると、定期的に歯科受診をしている人は残っている歯の本数が多く(\*1)、むし歯にかかっていない歯の本数も多い(\*2)ことがわかります。

2014年 愛知県歯科医師会調査

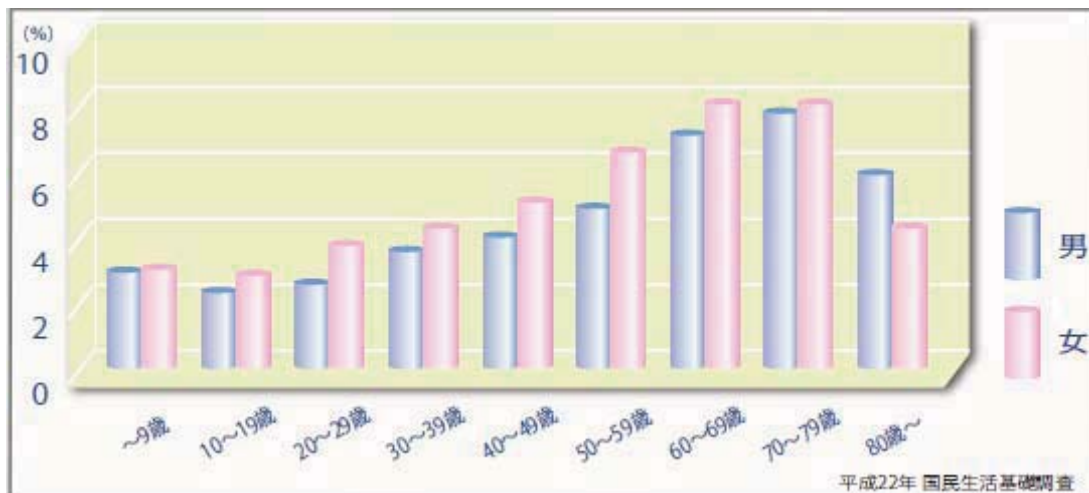
### お口の健康が体の健康を守ります



## 考 察

現在の日本では、母子保健法や学校保健安全法により1歳6カ月児・3歳児・保育園幼稚園・小中高校で法定の歯科検診を受けることができる。また、愛知県においては40歳～74歳の者は健康増進法により市町村の歯周疾患検診を受けることができる。しかし、高校卒業後から39歳までの者は、法定の歯科検診を受ける機会がほとんどなく、また若い世代の歯科の通院者率は低い状況にある。(図1)

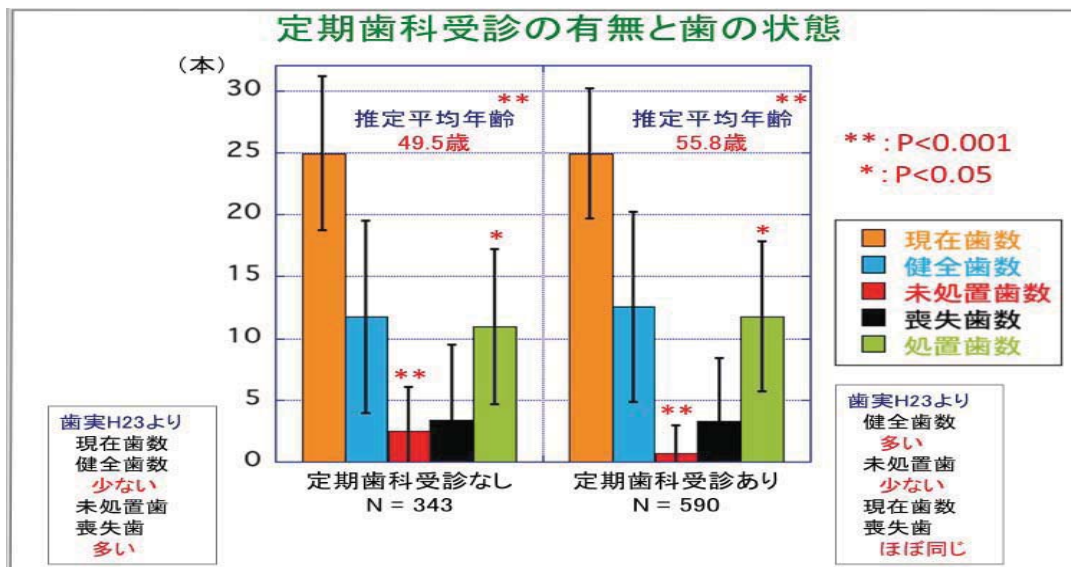
歯科の通院者率



(図1)

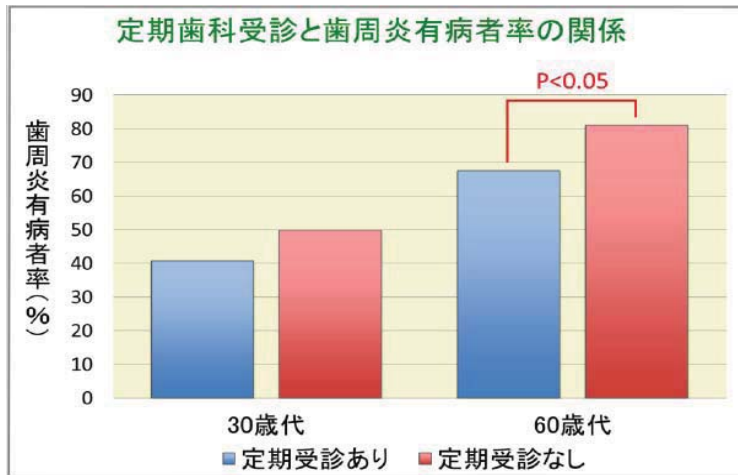
歯を失う原因となるう蝕や歯周病は症状が現れた時には、かなり進行している場合が多く、特に40歳ぐらいから進行した歯周病を有する者の割合が増加する。

今回の患者へのアンケートと口腔内所見を突合してみると、定期的な歯科受診は健全歯の維持、う蝕の早期発見による歯の喪失抑制（歯の残存）につながる結果となった。(図2)



(図2)

また、進行した歯周炎を有する者の割合は比較的若い世代では有意差はなかったが、60歳代では定期的な歯科受診なしの方が有意に高かった。(図3)



(図3)

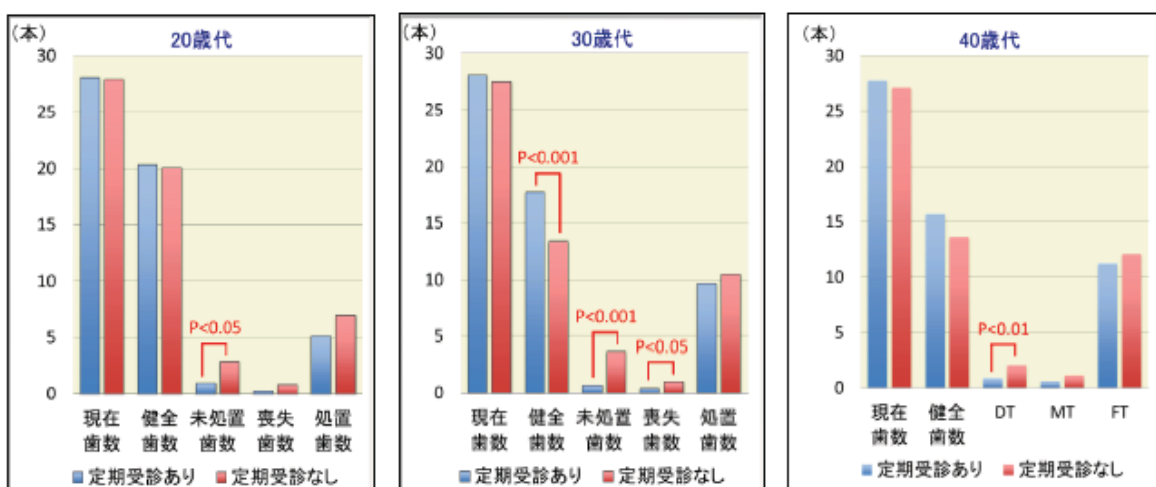
アンケートに回答したほとんどの歯科医師は、口腔内を良好に維持するため、患者に定期的な歯科受診を勧めている。また、9割近くの患者も口腔の健康維持のため、定期的な歯科受診が必要と回答している。

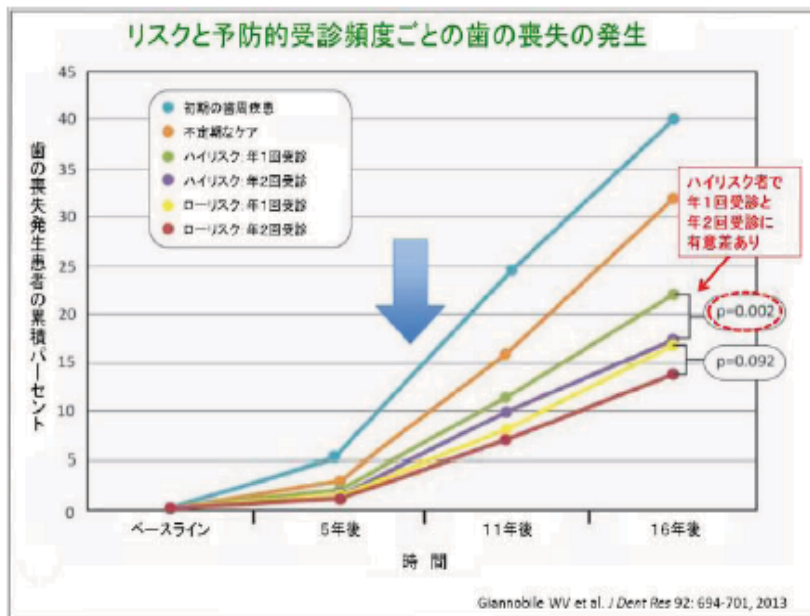
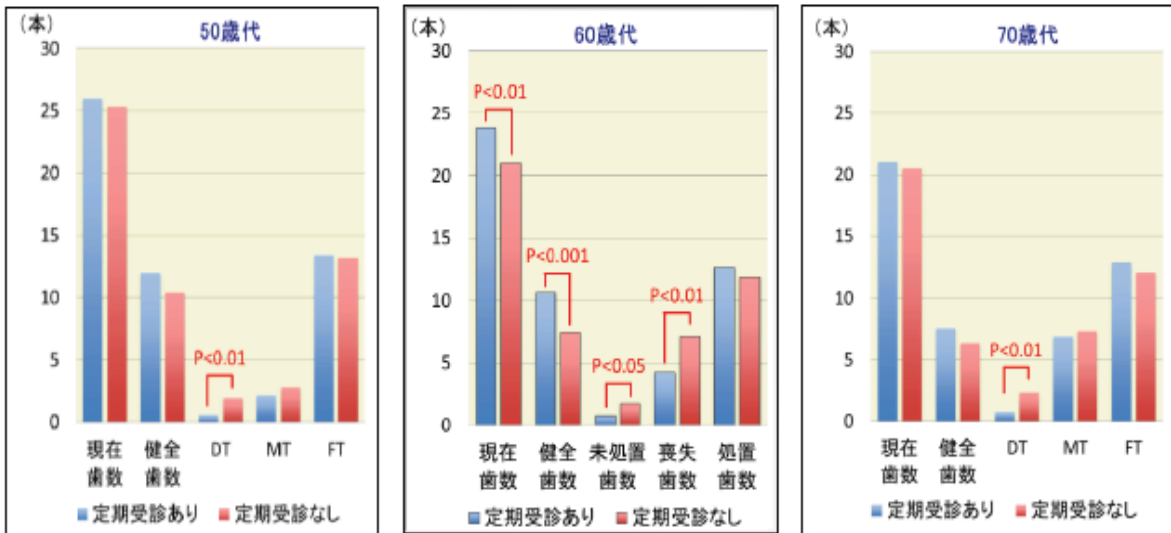
歯科医師・患者双方が定期的な歯科受診の必要性を認識していると言えるが、1年以上も歯科受診していない者が多くいるのが現状である。

定期的に歯科受診できない理由として、「忙しい・時間が取れない」が一番多かった。その他の理由として、「いつ受けたらいいのかわからない」・「忘れていた」が続き、歯科医師が適切なアプローチを行えば、定期的に歯科受診する可能性を秘めている。

健全歯が多く残存し、歯周炎が進行していない比較的若い世代から定期的な歯科受診する事は、効果的に歯の喪失を抑制し、8020達成者を増加させると考えられる。(図4、図5)

定期歯科受診の有無と歯の状態 (図4)





(図 5)

また、健康日本2 1 あいち新計画の項目の一つである「歯周炎を有する者の割合の減少(40歳)」が最終評価年度(平成34年度)以降も目標値(20%以下)を達成するためにも、口腔状態が比較的良好な若い世代(20歳代、30歳代)へのアプローチが不可欠であると考えられる。

今回の調査結果を踏まえ、法定の歯科検診を受ける機会がほとんどない若い世代の定期的な歯科受診する者の割合を増やすため、「定期的な歯科健診のすすめ」というリーフレットを作成し、愛知県歯科医師会の会員歯科診療所に配布した。

このリーフレットを活用し、各歯科診療所の歯科医師が来院した若い世代の患者に対して、診療の合間に啓発活動を行った。

次年度以降、地域職域や歯科医療関係者などを通じて、全県に周知していきたい。

